

## 平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】茨城県

【学校名】常総市立鬼怒中学校

### 【目標・ねらい】

- ・ パラリンピック競技についての理解を深める。
- ・ 障害をのり越えて前向きに生きるアスリートの思いや生き方を学び、(将来の)自分の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする覚悟と態度を養う。

### 実践1

#### 【実践の内容】

##### 1 総合的な学習の時間での調べ学習・発表

全学年が「パラリンピック」の基本テーマのもと、グループごとにテーマを決めて調べたり、辻沙絵選手へ自分の思いを書いたりした。

##### 2 「生き方に学ぶ」教育講演会

リオデジャネイロパラリンピック 400m(T47)銅メダリストの辻沙絵選手を講師として迎え、「夢や目標をもって生きる =挑戦=」の演題のもと講演をいただいた。



【明るい講演の様子】



【生徒に銅メダルを見せる様子】

僕は辻沙絵選手の講演を聞いて  
夢や目標をあきらめない大切さ  
を学びました。

僕には将来こうなりたいという  
夢や目標がありませんでした。  
でも、小さくても目標を持って  
挑戦しようという気持ちが  
生まれました。

まずは、受馬灸に合格するという  
目標を持ってがんばりたいと  
思います。

僕の目標は、市内総体剣道の部個人戦  
入賞です。昨年の新人戦では、6位という悔  
しい結果になりました。今までがんばって練習  
したのに、なんで勝てないの？という気持ちに  
なっていました。目標をあきらめかけ、ど  
んどんといもういげ、となっている気持ち  
で辻選手の講演を聞きました。生きた時から  
片手がかなく、それじゃにもできない、と思っていま  
して、好きなハンドボールをやるだけ、毎日の練習が  
50分だけ色々な事に熱心に練習した、という話を聞き、  
自分でも出来る、と自信がきました。何事にも  
あきらめずがんばろう、そう思えた講演でした。

### 【生徒の感想】

#### 【実践の成果】

- ・ パラリンピック競技についての知識や理解が深まるばかりでなく、障害を乗り越えて前向きに生きるアスリートの辻沙絵選手からの心に響く講演や触れ合いを通して、生徒一人一人が自分の生き方の振り返りや、将来の自分の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする覚悟や態度の育成の足掛かりとなった。
- ・ リオデジャネイロパラリンピック銅メダリストの辻沙絵選手の話を通じて、間近に迫る東京オリンピックパラリンピックのホスト国の国民として障害に対する考え方やそれを乗り越えて挑戦していく人間の強さ等の貴さの価値についても考えることができた。

## 実践2

### 【実践の内容】

「おもてなし講座」

元 JAL 客室乗務員で現在は筑波大学・大学院客員教授の江上いずみ先生を講師として迎え、「グローバルマナーとおもてなしの心」の演題のもと講演をいただいた。



【握手の仕方の説明の様子】



【生徒の退場を見送る様子】

### 【実践の成果】

- ・ 日常生活にも関係するマナー、ルールやおもてなしの基本について学び、再考すると同時に次の日の生活から早速実践している生徒も多数いた。
- ・ 「グローバルマナーとおもてなしの心」の演題のもと、2020年東京オリンピック・パラリンピックのホスト国の国民として日本ばかりでなく、外国の方々を迎える際の文化の違いを踏まえた、相手の立場に立ったおもてなしの心の醸成につながった。

## 実践3

### 【実践の内容】

「ブラインドサッカー」の体験

- ・ 体育科の授業として障害者スポーツの理解を図るために実施した。
- 「道徳」による学習の深化
- ・ これまでのパラリンピックに関する講演やおもてなし講座や体験活動を振り返り、今後の自分の生き方にどのように生かすかを考えた。

### 【実践の成果】

- ・ 障害者ばかりでなく相手の立場に立った行動やマナー等の他者理解にもつながった。
- ・ 夢や目標をもって生きる大切さを再認識することで自主性・自立性の育成につながった。

### 【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う問題点】

- ・ 学校全体でオリンピック・パラリンピック教育を進めていくための本事業の内容や趣旨，方法などを共通理解し全校体制で取組を推進していく必要がある。
- ・ 学習効果は非常に高いものがあつたが，各種講演会や体験活動と各教科や領域との関連，教育課程の中での位置づけなど校務分掌を含めて計画的に進めていく必要がある。
- ・ 県保健体育課の方々にご協力をいただきながら実践してきたが，講師依頼や購入物等の事前準備などの面でも綿密に連携を図っていききたい。
- ・ 生徒が養ったものを次年度以降にも，いかにステップアップさせていくかを関係諸機関とも連携を図りながら考えていきたい。